

2022 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [宿野 凌平]

学年・組・番号 [3 年 G 組 31 番]

研究課題： 対馬におけるポストコロナ時代の産業及び発展

(英文) Industry and Development of Tsushima in the Post-Covid 19 Era

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

対馬において、日韓関係の悪化や新型コロナウイルスの影響により韓国人観光客が激減した現在と、韓国人観光客が激増する 2010 年以前の街の様子や産業構造、観光収入などを比較、調査することで、韓国人観光客が対馬に与えた影響を研究する。また、そこからポストコロナ時代の対馬の持続可能な発展及び観光業の再興をテーマに設定し、韓国人観光客による買い物スポットだけではない対馬の魅力について、調査する。具体的な研究手法としては、現地調査を実施し、対馬の観光資源となる史跡・施設・景勝地の訪問、韓国人観光客の行動拠点・主要観光先となっていた施設の訪問、島民・市役所・観光物産協会・宿泊業者・観光業者への聞き取り調査を行う。現地調査後は、現地調査で得た知識に加え、対馬と同様の事例（外国人観光客が一時期激増したが後に激減した地域）を調査、比較する。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

対馬で現地調査を行い、対馬の産業について理解を深めた。対馬の面積の大部分が山林により占められているが、近年、産業の中心は第三次産業であり、韓国人観光客を相手にした観光業が経済を支えていた。2005 年に日本政府が韓国人短期旅行者へのビザ免除措置をとったことや対馬一釜山の定期便の増加の影響があり、対馬を訪れる韓国人観光客は増加の一途をたどった。2018 年には 41 万人が対馬を訪れた。しかし、2020 年以降コロナの影響があり、韓国人観光客が全く訪れなくなってしまった。現在では、彼等に依存しない観光振興を目指している。具体的手法としては、観光客の主体を韓国人から日本人に転換させるための旅行プランの見直し、一般的な「日本土産」ではなく、対馬ブランドの特産品を購入してもらい、一度の滞在期間を長くさせ、リピーターを増加させるためにサービスの量より質にこだわるといった点に力を入れ、客単価を上げる工夫を行っている。また対馬では、水産業や農林業の産業振興にも力を入れている。行政は、対馬産アナゴのブランド化や原木シイタケへの支援など 6 次産業化への取り組みを支援している。今回の調査を通して、対馬を支えるには産業の持続性を担保していき、付加価値を高める必要があると感じた。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3 年 G 組 31 番宿野凌平

研究分担者 3 年 E 組 23 番山崎悠太郎 3 年 E 組 8 番鈴木涼之介

担当教諭 柿沼亮介 (受給額： 40000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

